

土砂災害に注意

一般的に土砂災害は、降雨や融雪で地中の水分が増して地盤が緩み、さらに長雨や強雨が続いたときに発生するとされています。次のような現象を察知した場合は、直後に土砂災害が起こる可能性があります。直ちに周りの人と安全な場所へ避難するとともに、関係機関へ通報してください。

⚠️ こんな「前ぶれ現象」に注意！



● 流水の異常なにごり



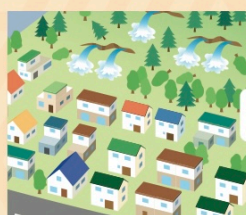
● 流木が発生
● 溪流内の転石の音



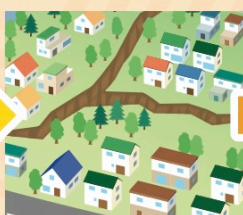
● 降雨時での水位の急激な低下
● 山鳴り・地鳴り

土石流

山や川の石や土砂が、大雨などにより水と一緒に激しく流れ下る現象。



● 湧水量の増加
● 井戸水のごり



● 亀裂の発生



● 山鳴り・地鳴り

地すべり

雨や雪どけ水が地下にしみこみ、断続的に斜面が滑り出す現象。



※地すべりの予測は技術的に困難であり、土砂災害警戒情報の発表対象となっていないので注意してください。



● 湧水量の増加



● 小石がぼろぼろ落下
● 湧水がにごる



● 小石がぼろぼろ落下
● 亀裂の発生

がけ崩れ

雨や雪どけ水、地震などの影響によって、急激に斜面が崩れ落ちる現象。



降雨量に注意



100ミリを超えたら要注意!

土砂災害の多くは雨が原因で起こります。1時間に20ミリ以上、または降り始めから100ミリ以上の降雨量になったら、十分な注意が必要です。

土砂災害警戒情報に注意



「土砂災害警戒情報」とは、大雨による土砂災害発生の危険度が高まった時、市長が避難勧告等を発令する際の判断や、住民の自主避難の参考となるよう、道と気象庁が共同で発表する防災情報です。早期避難の判断に役立ててください。

1時間雨量による雨の強さと降り方

やや強い雨



10～20mm未満

ザーザーと降る雨。地面一面に水たまりができ、地面からの跳ね返りで足元が濡れ、話し声が聞き取りにくくなります。

強い雨



20～30mm未満

どしゃ降りの雨。傘をさしていても濡れてしまうほどの雨で、側溝や下水、小さな川があふれ、小規模のがけ崩れなどの心配があります。

激しい雨



30～50mm未満

バケツをひっくり返したような雨。道路が川のようになり、山崩れ・がけ崩れが起きやすくなるため、危険地帯では避難の準備が必要になります。

非常に激しい雨



50～80mm未満

滝のように降る雨。河川の氾濫をはじめ、土石流などが起きやすく、多くの災害が発生するおそれがあります。車の運転も危険です。

猛烈な雨



80mm以上の雨

息苦しくなるような圧迫感のある雨。雨による大規模な災害が発生するおそれ強く、厳重な警戒が必要となります。